

H. P. Report

第11号

発行責任者 三菱電機株式会社 北陸支社 官公システム課 稲崎義明

Windows meについて (3)

Win meの次の新機能ですが、デジタルメディアへの対応があげられます。1つとして、メディアプレーヤのバージョンアップがあげられます。これまでのメディアプレーヤがアクセサリの一部でビデオの表示や音声データの特定ファイル形式の再生が出来る程度のものでした。それがバージョンが7となり、パソコンで利用するほとんどの音声、映像を再生、管理できるようになりました。このメディアプレーヤのバージョン7はWin 98などでも利用できるよう雑誌の付録としてなど提供されていますが、機能アップしたために非常に重くなり266MHz以上のCPUが必要となっています。メディアプレーヤでの再生のうちCDの再生では、これまで表示するためには入力する必要のあった音楽CDのアルバム名や曲名、アーティスト名などがマイクロソフトのWebサイトからダウンロードすることが出来るようになっていきます。また、メディアガイドというインターネットを使って映画や音楽のプロモーションやニュース映像などと連携が取れるようになっていきます。また、音楽CDの取り扱いとしては、CDの内容をパソコンのハードディスクにコピーできる機能を搭載しています。保存はWMAという形式で、CDオーディオの画面で音楽のコピーを選択するだけでコピーすることが出来ます。保存した曲はメディアライブラリで管理され、ジュークボックスソフトとして音楽CDを入れ替えずにパソコン上で楽しめるばかりか、インターネットとで購入した音楽データを管理することもできます。また、外でも利用できるようパソコンの音楽データをUSB経由で携帯音楽プレーヤ（対応できる機器とソフトが別途必要）に転送することもできます。メディアプレーヤはメインとなる機能のすべてが何らかの形でインターネットの利用を前提として作られています。たとえば、音楽CDを入れるとアーティスト名などが不明の場合インターネットからダウンロードするためにインターネットのホームページからダウンロードするために自動で接続に行ったりします。また、インターネットラジオ機能で全世界のラジオ（もちろんインターネットに音声データを提供している局）を聞くことができます。このように全体的にインターネットの常時接続環境でこそ十分に活用できるつくりになっています。

その他に、デジタルビデオ編集のできるビデオ編集ツールであるムービーメーカーが搭載されています。このツールはDVカメラからビデオデータを読み込んでカットや組替えなどを行なうなど基本的な編集を行い、データは高圧縮のMPEG4形式で保存されます。これは、ビデオ編集が電子メールへの添付ファイルの作成やホームページへの掲載を目的としたもので、ビデオを編集してビデオライブラリを作ろうとする場合には向いていません。ただ、メールに添付する場合には簡単で、ムービーメーカー上でビデオ編集を行うと、その画面上に「送信」ボタンがあります。この送信ボタンをクリックすることによって添付する電子メールソフトを選択して作ったビデオファイルを添付した状態で電子メールの作成画面が自動的に開きます。

Win meのデジタルメディアへの対応は、インターネットの活用、特に常時接続環境を前提として作られています。メディアはインターネット経由で情報を入手し、必要なものをダウンロードし、いつでも自由というのようになってきています。しかし、まだ常時接続の環境は整っているとはいえません。その中でのWin meの使用は、裏で何が動いているかを知ったうえで使わなければいつのまにかインターネットに接続されているということになったりします。

(次回へ続く)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 10月9日号

特集 Napsterを知らずして

→インターネットでいろいろなものが配信されている。その中には著作権を保護しようとするものもあるが、見知らぬ人の中でこのようなコンテンツを交換しようとしているものに「Napster」を利用したものがある。利用すると100万曲がいつでもダウンロードできる。音楽を含めてコンテンツはすべてただになるとした上で新しいコンテンツ事業を考える必要が出てきている。

特集 PS2追撃の切り札 任天堂次世代機の全貌

→いつの間にかトップの座を追われた任天堂。次世代機はその反省のもとゲーム開発がしやすい、若年層をターゲットにできる価格などをもとに開発し発売する。

○日経パソコン 10月16日号

特集 基礎からわかるネットワーク

→簡単に接続できるようになったダイヤルアップによるインターネット。半自動化したために設定しやすいが何かあったときに対処できない。そのためダイヤルアップ、ドメイン名、ISDN、ルータ接続などネットワークに絞って基本部分から紹介。

○日経オープンシステム 10月号

特集 インターネット時代のスピード開発法

→「カットオーバーまで3ヶ月」などインターネットの時代システム構築に対するスピードアップの要求が厳しい。開発範囲(プロジェクトスコープ)を絞り込む、既存資産を最大限に活用するなど既存の開発手法を見直し、無駄を徹底排除することによってカットオーバー短縮へ対処することができる。

活用 バックアップツール

→サーバを運用する上で必要なバックアップツール。単機能特化型から総合型製品などがある。製品間で大差はなく、データベースなどの特定環境に依存する部分を比較する。

○日経ネットビジネス 11月号

特集 筋肉質のネットベンチャー

→ネットビジネスに成功するのは大企業である必要はない。優れたビジネスモデルを確立し、適切な経営戦略を実行できる企業であればネットビジネスで生き残っていくことができる。

○日経バイト 11月号

特集 常時接続の光と影

→2001年安価な常時接続サービスが誰でも使えるようになる。64kのISDN回線ばかりでなくADSLの500kのサービスも始まる。しかし、セキュリティの意識がなく常時接続されたコンピュータを踏み台として最終目標を狙う不正アクセスもある。自分のところぐらひは安心しいうことはない。

特集 Windows Meは仕事に使えるか
→Win9×の最終のWinMe。マイクロソフトは必死にビジネスはWin2000とっているが実際はWin9×系が多い。いろいろセキュリティを強化したWinMeだが実際どこまで仕事に使えるか。

○DOS/V magazine 11月1日号

特集 Windows Me搭載マシンの研究
→最後の16ビットコード対応WindowsのWinMe搭載パソコンについて、その最大の魅力であるEasyPCに関する対応状況、についての記述的解説から各パソコンの紹介まで。

特集 最新スキャナ活用ガイド
→1台はほしいスキャナ。その選択のポイントと、解像度にあわせた使い方、オートで取り込むよりきれいに取り込めるテクニックまで。

特集 ダウンロード完全攻略テクニック
→インターネットからダウンロードしてフリーソフトを使ったりWindowsのアップグレードを行ったり。たまには発生するダウンロードの失敗。ダウンロードのテクニックから支援ソフトまで。うまく使っていきたいダウンロードのテクニック特集。